

「川は川が作る。」

この意味は、川の形態は川の流れが自然に作るもので、自然物に似たものを人工的に作るものではない。人間が余計な手を出さないという意味だと思います。蛇行のようなスケールではなく、川の中の話です。例えば、瀬と淵とか、ワンドです。淀川のワンドは人工物（水制）の間に出来上がったもので自然物ではないので、人工的に再生しても悪くは無いのですが、それ以前にあったであろう自然のワンドはどんなものだったのでしょうか。金をかけずに対応したいものです。

公共事業費がピーク時の半分以下になり、今後も減る事はあっても増えることが無いとすれば、環境・景観も、継続してゆける物、方法、システム（住民参加を含む）でなければなりません。草刈りなど住民参加を前提に始まったものがうまく行っていないケース、ブロック護岸を土と草の護岸に改修して（近自然工法）、出水によって大きな被害を受けたケースがあったと聞いています。逆に言うと、この10年か15年くらいは新しい物も予算的にまだできるでしょうから、本当に作らなければならないものを選んで作る必要があると思います。